

調査研究彙報

美術工芸研究室

日本美術彫刻等修理記録の刊行(特別研究) 本年度は同書のVIとして、京都府下の彫刻等108件をとり上げて整理、研究を行い、図解276頁、解説209頁、写真196頁にわたる修理記録を公刊した。

塔本塑像の復元的研究(科学研究) 薬師寺西塔跡出土塑像断片を中心とした研究で、52年度同塔跡から出土した1864片の整理、調査を終え、これに関連するものとして宮城県多賀城講堂跡、岡山県久米庵寺、鳥取県斎尾庵寺、群馬県山王庵寺、武藏国分寺跡などから出土した塑像断片の調査を行った。(田中義恭、佐藤興治、田辺、大脇)

その他の調査 岐阜県恵那市、奈良県田原本町、同広陵町等の各教育委員会の依頼によって各市町内の仏教美術を中心とした文化財調査に協力した。また、昨年來奈良県下を中心に仏像の盜難が相続いだが、犯人が奈良県御所警察署に逮捕され、発見された仏像約40件について、同署の依頼で調査を行った。これらの中には平安後期の作品や室町時代の在銘品などが注目すべきもの数点が含まれていた。

建造物研究室

重要文化財「船屋形」の修理 神戸市垂水区舞子町牛尾吉朗氏の邸内にあったものを神戸市が同氏より寄贈をうけ生田区中山手5町目の相楽園内に移築した工事である。53年度は解体工事、54年度は組立工事で工事中の復原的調査と工事指導を行った。この船屋形はもともと姫路藩主の川御座船として建造されたものであるが、明治初年に船本体は失なわれその屋形部分だけが陸上げされて茶室として使われていた。総二階建てで二階中央の上段の間が御座、その前方が床几の間、後方が次の間と呼ばれる。一階の天井高は本来なら低く1.25mしかないが、今回も船底下の縫ぎ足し部分は撤去せず移転前のままとした。上段の間内法長押金具の紋所に表裏あわせて4度の変遷があることから、天和2年(1682)から宝永元年(1704)の間で在城した本多家時代に建造され、以後代々の藩主に引き継がれ使用されていることがわかった。なお修理は年度末で完了し、その修理工事報告書が刊行されている。(細見)

近世社寺建築特別調査 既実施の全県的な緊急調査の成果からある特定の地域または特定の形式を選び、さらに精査を加え重要文化財指定に必要な基礎資料の作製を目的とした。今年度は岡山県津山市を中心に分布する入母屋造妻入り向拝付き本殿(中山造)が対象である。そのうちの八幡神社本殿(津山市北・1669)が54年3月に指定された。(細見・上野・中村雅治)

桂離宮建築調査 当研究所で協力している桂離宮調査は、今年度、新御殿、旧役所について、建築技法、後世の変更箇所などについて行った。なお古書院、中書院は今年度竣工した。(工藤)

文化財建造物修理用資材需給実態調査 文化庁が継続的に行っている調査で本年度は壁材料、たたき土(床材)が対象である。当研究所は委嘱を受け長崎、愛知両県のたたき土について現地

調査した。たたき土は文化財建造物や茶室などの古式建築の一部に用いられている程度で商品として流通していないが、原料は不足しておらず、道路工事現場、土採場から入手することは困難ではない。しかし原料、工法には地方差があり、建築の地方色を生かすためにもこの点は大切と思われる。(吉田)

倉吉市町並調査 文化庁補助金事業による調査。川に沿った土蔵群が景観的な中心となることはいなめないが、屋敷構、町の構造からは表通りに面した主屋も無視できない。今回の調査で町並の文化財的価値はかなりある、と認められたので保存計画策定が早急に望まれる。(吉田)

民家の軸部構造の系統的発展に関する研究(科学的研究) 民家の軸部構造の類型を整理、分析して年代的な発展と地方的系譜を明らかにしようとする。熊本県を中心とする九州、沖縄各地の現地調査(民家実査と資料調査)、民家緊急調査報告書による構造類型の整理を行った。(吉田)

ギナイ氏研修 ギナイ氏はトルコのイスタンブル国立工学建築アカデミーの準教授で建築史、古建築修理技術専攻である。昭和54年9月から55年3月迄滞在し、我国の古建築、主として町屋の建築技法と修理技術を調査研究された。氏は国際交流基金の招聘を受け、当研究所が受入れたものである。(吉田)

歴 史 研 究 室

東大寺文書調査 文化庁の委嘱による東大寺未成巻文書の調査で、1974年度から継続。未成巻文書第3部第12(雜)442号から、第6部(楽人舞人)30号までの調書を作製した。但し、そのうち第5部(造営勧進)で別置してある分は未調査である。また写真撮影については、第3部第5(壳券)から、第3部第8(譲状)まで、完了した。前年度にひきつづいて、『東大寺文書目録第2巻』(第1部第24雜庄、第25雜、第2部寺法)を刊行した。

興福寺典籍古文書調査 従来よりの継続調査。10月。第53・55函の調査完了。また興福寺大和国雜役免坪付帳(東諸郡)および肝要図絵類聚抄の写真撮影をした。

西大寺典籍古文書調査 従来よりの継続調査。2月。第76函調査完了。

仁和寺典籍古文書調査 従来よりの継続調査。3月。塔中蔵階下書籍の調査をひきつづき実施し、第205~207函の調査を終えた。また「三十帖冊子」附である行遍僧正消息1巻および三十帖策子々細1巻を調査し、写真撮影をした。

「法曹至要抄」断簡の調査 3月。岡山県金光町の金光図書館所蔵「法曹至要抄」断簡の調査および写真撮影をした。この断簡は文和2年(1353)具注暦残闕の紙背に、法曹至要抄出挙条と借物条のうち6ヶ所が書写されているものである。

その他の調査 東寺百合文書調査 6月、8月、1月、文化庁美術工芸課の指定調査への協力。高山寺(協力) 7月。宝生院蔵「尾張国解文」調査 7月、稻沢市の依頼による。東寺觀智院金剛藏聖教調査(協力) 8月、9月。静岡県森町藤江喜重氏所蔵(小杉権邸旧蔵)書跡等調査(協力) 8月。醍醐寺(協力) 8月。石山寺(協力) 9月、12月。正倉院聖語藏調査(協力) 10月。東京大学史料編纂所(島津家文書など) 1月。

小杉権邸旧蔵品には、山城国計帳断簡など正倉院文書や藤原定家自筆「明月記」断簡などが含まれており、静岡県より近時目録が刊行される予定である。

平城宮跡発掘調査部

法隆寺境内の調査 1 調査地は、東院伽藍の伝法堂の西南約15m、東院の西築地に接する位置にあたる。法隆寺が、ここに門を新営することになり、奈良国立文化財研究所と権原考古学研究所が共同で事前調査を行った。東院伽藍の下層からは、1934年に始った修理工事によって、斑鳩宮跡と推定される大規模な掘立柱建物が発見されており、今調査地点はこれに関連した遺構の存在が予想された。調査は東西5.5m、南北11mの範囲で行った。発掘区の一部は近代の瓦溜などによって破壊されていたが、最も古い時期の遺構としては、斑鳩宮に関連すると考える掘形2を検出した。これは約1.2×1mの規模である。次いで、平安時代の東院修理に関連した掘立柱の東西屏と、瓦を積んで井筒とした井戸がある。この井戸は中心に曲物を2段にいれ、この井戸枠を四角く囲むように6691型と山字形の中心飾をもつ軒平瓦を平積みしている。井中からは後にも述べる隅木蓋瓦の破片が出土。この他、中世の土器を含む不整形の浅い土壙がある。

さて、隅木蓋瓦は、前面と側面の破片であるが復原を試みた。前面には鬼面文を飾り、側面には唐草文を表現している。蓋部上面を山形に作るが、下部は平端なようである。また茅負の隅角に嵌めこむための三角形の割りがある。現存部の切りこみからすると、隅角を鋭角・鈍角いずれにも復原可能である。前者は真角の建物に、後者は八角円堂への用途を推定できる。確実な寸法は、側面の高さ(7.8cm)と正面の一部のみであるが、幅30cm、長さ39cmに復原できる。文様の特徴からみて、時代は平安初期と推定する。

この隅木蓋瓦や井筒の軒瓦が東院伽藍で使われたものと仮定すると、東院の創建や修理に関する記録などから、貞觀年間の修理に製作され、その後の修理時に廃棄されたと推定することもできる。(金子)

法隆寺境内の調査 2 昭和53年度からはじまった防災工事に伴う調査である。奈良県教育委員会との共同調査、今年度は、伽藍裏山の通称梵天山の貯水槽建設予定地、西院伽藍の上御堂と地蔵堂の周辺を発掘した。地蔵堂地区で奈良・平安時代の溝を検出した以外、ほとんどの遺構が近世のものである。2・3月。(金子・毛利光)

伯耆国分寺の発掘 環境整備にかかる発掘調査で、昨年につづき南門推定地を中心に行なった。調査区は昨年度トレンチの東側で、門の遺構は後

法隆寺東院出土隅木蓋瓦

世の削平が著しく、不明瞭であったが、地山を削り出した基壇南辺の一部を検出した。基壇前面からは瓦類が多く出土している。今回の調査によって、南門の位置をほぼ推定できることとなった。この他、塔の南で、寺域の南限溝を確認した。倉吉市教育委員会。10月。(佐藤寅治、安田)

出土木製品の調査 考古第一調査室では今年度は、次の2箇所で行った。天理市布留遺跡の調査。古墳時代の木製刀剣装具多数、倭琴などを実測。5月28~29日(菅原・金子・毛利光・井上)。兵庫県但馬国分寺跡及び姫谷遺跡の調査、人形・馬形・鳥形など平安時代の祭祀具を多量に出土した遺跡。人形、馬形等実測。2月(金子)

美濃国分寺環境整備 大垣市の依頼により、今年度は給水工事、修景植栽工事の実施設計、施工の指導を行なった。(安原・田中哲雄) 4月~3月

三ツ塚廃寺環境整備 市島町の依頼により、今年度は三ツ塚廃寺西辺部の整地、苑路造成・造構表示実施設計の指導を行なった。(田中哲雄) 11月

環境整備担当者会議 55年1月31日~2月1日。5回目のこの会議は三重県斎宮跡で行なわれた。文化庁・宮城県・福井県・広島県・福岡県の常任担当者の他、京都・滋賀・三重の各府県等の参加もあり、活発な意見交換が行なわれた。主な問題点は斎宮跡の整備に関連して、掘立柱址の整備について、各研究所から事例の発表が行われた。また環境整備全般の問題点についても検討が行なわれた。(田中哲雄・渡辺)

弥勒寺環境整備 関市の依頼により、史跡弥勒寺の整備に関連して保存管理計画策定のための指導を行なった。(安原・田中哲雄) 10月

埋蔵文化財センター

美作国分寺跡の調査 回廊と寺域、東・西・北限の確定を目的とした調査の指導を行なった。東面回廊、寺域東限を画すとみられる溝、塔の東雨落溝と推定される玉石敷溝等を検出した。岡山県津山市教育委員会。6月(田中琢)

上原遺跡の発掘調査 昨年度に引き継ぐ調査で、大規模な掘立柱建物群およびその北限・西限を画すとみられる溝を検出した。遺跡の性格解明は来年度の調査に待たなければならないが、遺跡の範囲は、東西約150m、南北150m以上と推定される。7・9・12月。気高町教育委員会。(山中)

座光寺バイパス遺跡の調査 郡衙跡とも推定されている恒川遺跡における掘立柱建物群の調査指導、馬骨の取り上げ処理、新井原12号墳墳丘断面の土層はぎとりの指導を行なった。11・2・3月。飯田市教育委員会。(工楽・沢田・秋山)

薩摩国分寺跡の調査 講堂では、掘込地業(46.5×14.5m)、凝灰岩をたたき込んだ堅い地業、礎石を検出した。金堂の北西部では、南北棟5×4間総柱の掘立柱建物を検出した。伽藍中心部の外の南・東・北の三辺では素掘の溝を検出し、寺域確定の手がかりをえた。8月~9月。(岡本、山崎)

佐賀茶園原遺跡の調査 サヌカイト原産地内での石器製作所遺跡。良好な生活立地地域内にあ

3 飛鳥資料館の運営

展示

第一展示室 常設展示

第二展示室 特別陳列「桜井の仏像」

(1979.3.27～1979.5.6)

特別展示「飛鳥時代の古墳

—高松塚とその周辺—

(1979.9.28～1979.11.11)

普及

前年同様インフォメーションルームで観覧者の質問に応じている。また特別展示のカタログとして「桜井の仏像」及び「飛鳥時代の古墳」を刊行。

入館者数 (1979.4.1～1980.3.31開館日数303日)

模造製作

高松塚古墳出土品(棺飾金具)

橘寺火頭形埴仏、石のカラト古墳

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として、主に地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

(1) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(写真測量課程)

1979年5月9日～5月19日 (参加者12名)

(2) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(自然遺物課程)

1979年6月11日～6月23日 (参加者12名)

(3) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者一般研修
1979年7月23日～8月25日 (参加者24名)

(4) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺跡調査課程)

1979年9月17日～10月6日 (参加者16名)

(5) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺物保存科学課程)

1979年10月18日～11月2日 (参加者13名)

(6) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺跡保存整備課程)

1979年12月3日～12月12日 (参加者24名)

(7) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺物整理課程)

1980年1月28日～2月9日 (参加者24名)

(8) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修
(第1回特殊調査技術課程)

1980年2月14日～2月18日 (参加者24名)

(9) 昭和54年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(調査計画課程)

1980年3月3日～3月13日 (参加者18名)

(10) 研修員受入

ア 御村 精治 (度会郡小俣中学校教諭)

垣見 博一 (三重県立白子高校教諭)

1979年10月2日～11月20日

榎本 義謙 (松阪市第四小学校教諭)

1979年6月4日～8月3日

イ 小嶋 芳孝 (石川県立埋蔵文化財センター
主事)

1979年6月25日～6月30日

ウ David Albert Slawson (米国インディアナ
大学大学院生)

1979年9月21日～12月5日

エ Bahira Al-Kaissi (イラク文化芸術省考
古総局化学技師)

Thakaa Gazzie Magid (イラク文化芸術省
考古総局保存技師)

1979年12月17日～12月21日

オ 石井 穀 (財団法人茨城県教育財団主任
調査員)

佐野 正 (〃)

1980年3月21日～3月25日

調査整備等指導

(北海道) 史跡旧下ヨイチ連上家, (青森) 弘前
城三の丸庭園遺跡, (岩手) 莢内遺跡, 二戸市上
里遺跡, 史跡胆沢城跡, (秋田) 秋田城跡, 史跡
払田柵跡, 東北縦貫自動車道建設関係遺跡, (福
島) 慧日寺跡石塔, (群馬) 新保遺跡, 芳賀団地
東部遺跡, (埼玉) 辛亥銘鉄劍保存, (石川) 和
田山・末寺山古墳群, (福井) 朝倉氏遺跡, (長
野) 座光寺バイパス遺跡, 松本高校遺跡, (岐
阜) 史跡美濃国分寺跡, 羽生遺跡, 史跡弥勒寺

跡、美濃古窯跡群、(静岡)伊庄谷横穴墳群、(愛知)馬見塚遺跡、尾張國府跡、石塚古窯跡、(三重)川原井遺跡、斎宮跡、北堀池遺跡、天華寺廢寺、(滋賀)榎木原遺跡、(京都)栗栖野瓦窯跡、史跡蛇塚古墳、小塙地区山岳山林地域遺跡、恭仁宮跡、上津遺跡、京都市高速鉄道予定地内遺跡、(大阪)龜井遺跡、(兵庫)緑ヶ丘遺跡、魚住古窯跡群、福本遺跡、丹波三ツ塚廢寺、(奈良)鍵唐古遺跡、史跡飛鳥寺跡、高安城跡、(和歌山)道成寺遺跡、崎の湯湯壺、船岡山遺跡、(鳥取)上原遺跡、広瀬廢寺跡、伯耆国分寺跡、(島根)尼寺原遺跡、史跡富田城関連遺跡、团原遺跡、出雲國造館跡、(岡山)美作国分寺跡、東大寺瓦窯跡、(広島)寺田廢寺跡、草戸千軒町遺跡、(山口)長門國府周辺遺跡、大内氏遺跡、(徳島)阿波国分寺遺跡、(香川)青ノ山登窯、西村遺跡、(愛媛)永納山城跡、(高知)土佐国衙跡、(福岡)太宰府跡関連史跡、(佐賀)茶園原遺跡、九州横断道遺跡、名護屋城、国府跡、(熊本)平原瓦窯址、(鹿児島)薩摩国分寺跡

埋蔵文化財ニュース刊行

第20号 昭和52年度埋蔵文化財関係調査報告書一覧 1979年6月30日
第21号 昭和52年度埋蔵文化財関係記事等掲載一覧(付行政資料) 1979年8月30日
第22号 国分寺等発掘調査関係文献目録 1979年12月17日
第23号 遺跡の露出展示 1980年2月26日
第24号 鉄製遺物の保存法 1980年3月3日
第25号 埋蔵文化財調査センターの現状 1980年3月18日

5 その他

委員会等

第6回飛鳥資料館運営協議会
1979年5月15日 於飛鳥資料館
平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会
1979年5月25日・26日 於平城宮跡資料館
集落町並保存対策に関する研究集会
1979年12月4日・5日 於文化会館

外国出張

坪井清足 ドイツ考古学研究所150周年記念国際研究討論会議出席、ドイツ古代都城遺跡視察及

び調査研究のためドイツ連邦共和国に派遣。

1979年4月15日～同年5月4日

佐原 真 ドイツ考古学研究所150周年記念国際研究討論会議出席及びドイツ古代都城の調査研究のためドイツ連邦共和国に派遣。

1979年4月15日～同年5月27日

木下 正史 「日本考古展」出品物の開梱、陳列、撤収及び会期中における管理保全のためのキューレーターとしてアメリカ合衆国・カナダに派遣。

1979年4月26日～同年6月1日

宮本長二郎 第2回アジア太平洋文化財等保護会議出席及び韓国内の建築遺跡の調査のため大韓民国に派遣。

1979年5月27日～同年6月7日

工藤圭章 文部省在外研究員として建造物保存と修理技術の比較研究のためスペイン・デンマーク・スウェーデンに派遣。

1979年6月4日～同年7月28日

坪井清足 米国ミシガン大学主催による日本考古学に関する国際シンポジウムに参加及びアメリカ先史跡の保存に関する調査と遺跡の視察のためアメリカ合衆国に派遣。

1979年10月3日～同年10月15日

山本忠尚 「日本考古展」出品物の開梱、陳列、撤収及び会期中における管理保全のためのキューレーターとしてアメリカ合衆国に派遣。

1979年11月3日～同年12月5日

猪熊兼勝 文部省在外研究員として古代墳墓の築造法に関する調査研究のためブラジル・ペルー・グアテマラ・メキシコに派遣。

1979年11月25日～1980年1月23日

西村 康 「日本古代文化史展」出品物の開梱、陳列、撤収及び会期中における管理保全のためのキューレーターとしてアメリカ合衆国に派遣。

1980年1月29日～同年3月6日

田中 琢 ギリシャにおける文化財の保護の沿革とその保存活用体系の調査研究のためギリシャに派遣。

1980年3月17日～同年3月31日

協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度から当研究所が文化

り宅地造成など開発にさらされる。国・県の補助金を受け、史跡指定、保存計画に伴う範囲確認調査。石器製作に関する豊富な資料を出土し、新知見も多い。佐賀県多久市教育委員会。6月。（松沢）

芳賀団地東部遺跡 住居跡の探査に磁気探査がどのように利用できるかの検討を市教委に依頼され、現地で測定。前橋市教育委員会。12月。（西村、岩本圭輔）

栗栖野瓦窯 瓦窯跡群の実態を把握するための確認調査として計画されたボーリング、磁気探査、発掘のうち、磁気探査を全面的に援助。探査面積2100m²強、延4日間の測定で、窯跡と推定される磁気異常を6個所確認。京都市埋蔵文化財研究所。5月。（西村、岩本圭輔）

薺内遺跡出土足跡の切り取り 岩手県盛岡市所在。縄文人足跡の一部を130×130cmの大きさで二ヶ所切り保存することになった。ウレタンフォームを利用して切り取り工事をおこない、溶剤を利用して土壤を乾燥させ、合成樹脂でこれを硬化して仕上げとした。日本では最古の人足跡と言われ、博物館等に広く公開の予定。（沢田・秋山）

上里遺跡出土人骨の取り上げ 岩手県二戸市所在。人骨八体が埋納された土壙を現場で精査できないため、室内に出土状態のまま搬入することになった。切り取り作業の工程を現地指導した。（沢田）

榎木原遺跡出土登窯の移設保存 滋賀県大津市所在。大津京時代の登窯で、問口4.9、奥行6.3、高さ5.2m。窯内壁面を合成樹脂で硬化、窯内部をウレタンフォームで充填補強、窯口を除く三側面を鉄筋コンクリートで保護し、これをコロで国道バイパスルートから30m移動する計画。本年度は窯内の樹脂硬化とウレタンフォームの充填に係る現地指導をおこなった。（遺物処理、保存工学研究室）

蛇塚古墳石室の応急保存処理 京都市所在。巨大な岩石を組みあげた石室の構造上の安定はきわめて悪く、根本的な保存対策を急務とするものである。今回は、これら組みあげ岩石の目地を埋める漆喰ようのものの剥落防止の処理をおこなった。（沢田、秋山、内田）

伊庄谷横穴群出土木棺の取り上げ 静岡市所在。同市は300×150cmの範囲に広がる木棺を出土状態のまま取り上げ、展示することを計画。ウレタンフォームを現場発泡させて木棺を梱包・保護し、取り上げた。これら一連の取り上げ工法、並びに保存処理について現地指導した。（町田、沢田）

研究集会「遺物保存の技術検討会」 3月17、18日の両日、埋蔵文化財センター研修棟にて60名が参加して開催された。出土遺物の保存処理事業は、今日広く理解されるようになり、当埋蔵文化財センターが主催する「保存科学課程」の研修も軌道にのり、各地の機関でも活発に保存処理がおこなわれつつある。本検討会では各機関の担当官が一堂に会して、保存処理の実例を報告し合った。12名の講演発表の後、参加者相互の経験を生かしての討論がおこなわれた。なお、今回のテーマには、出土遺物の中でも、特に破壊しやすく、保存の困難な金属製造物と木製造物の保存問題を取り上げた。（遺物処理研究室）